

自分の感覚を羅針盤に描く 画家 田中正 さん

アートオリンピア 2015 一般部門 大賞受賞



「休日」水彩、鉛筆（1985年）



「男と女のいる風景」水彩、鉛筆（1993年）



「秋のソナタ」ボールペン、色鉛筆（2013年）



「おかえりなさい」ボールペン、色鉛筆（2015年）

どこまでも自然体な人である。大きな賞を取って変わったことは？と聞くと「特にありませんね。強いて言えば、娘が私の描く絵をぞんざいに扱わなくなったことかな（笑）」と屈託が無い。

10代の頃から油絵を習い始め、家業の塗装業のかたわら絵を描き続けてかれこれ50年近く。昨年、第1回国際芸術コンペティション「アートオリンピア2015」一般部門で、世界52カ国・4,186点のなかから頂点となる大賞に選ばれた。受賞の知らせを受けたときも現場の足場に登っている最中で「本当にびっくりした。落ちなくて良かったですよ」と笑う。受賞作の『おかえりなさい』は、ボールペンと色鉛筆で、亡くなった人の魂が故郷に戻るイメージを描いた幻想的かつ繊細な作品だ。

日々、仕事を終えた後の1時間ほどを創作にあて、一つの作品を2～3ヵ月かけて仕上げる。「父も仕事をしながら絵を描いたり彫刻をしたりして、“二足のわらじ”は当たり前と思った。1日中描いているのは性に合わないですね」と話す。描く前は大体のイメージはあるものの、特にテーマを定めずに鉛筆でラフスケッチをし、緻密にディテールを描き込んで仕上げていく。「特に、これを描いてみようという思いはなくて、すべて自然に湧いてくるイメージで描く。だから何が出てくるかわからない。それが自分でも面白い」という。これまでおよそ10年単位で作風が変化した。2002年、雪舟の水墨画に感動し現在のスタイルにたどり着いた。最近では死生観を感じさせるモチーフも登場する。

受賞後、賞金で大好きなブリュゲルの絵を観に行きたいと話したが、多忙を極めまだ実現していない。田中さんにとって絵とは？との質問に、しばし考えてから「自分そのものですね。描くことは“儀式”。日常生活の節目に行う、自分と向き合う儀式でしょうか」と答えた。

今後については「描き手としての集大成になるかな、と思う構想がすでにある」と話した田中さん。“すべて自然任せ”と話す笑顔の中に、一本筋の通った信念が見えた。

〈プロフィール〉田中正（たなか ただし）

1953年前橋市生まれ。中学卒業後、川隅路之助氏に師事。73年、真下道明氏と若井啓二氏の3人でグループ「タダ」を結成、現在に至る。80年代は水彩画やコラージュアートを創作。2002年、雪舟の水墨画に出会い筆一本での創作力に感動し、ボールペンで静物画などを描き始める。11年、第9回熊谷守一大賞展優秀賞。14年、日本の絵画2014佳作賞、第10回世界絵画大賞展入賞。15年第1回アートオリンピア2015一般部門最高賞の金賞受賞。

主な個展・グループ展

1973年～現在まで年1～2回、グループ展「タダ」（高崎）。2008・9・10・12・13・15年 阿久津画廊（前橋）にて個展。2015年 ギャラリーQ（銀座）にて個展。



■田中正 正作品集
風景と記憶が完成しました

現在の作風となった2005年～2015年までの10年間にわたる作品、57点が収録された初の作品集が完成しました。

画集は、じっくりと絵の世界観を堪能できるだけでなく、ほぼ年代順に作品が構成されて

いるため、

作風や描か

れる風景の

変化がわか

る見応えの

ある1冊で

す。作品集

をご希望の

方は、阿久津画廊まで

（定価2,160円（税込））。



■田中正展 —作品集出版記念展—

作品集の出版を記念して展覧会を開催します。現在の作風での作品を中心としつつも、以前の作品も含めて展示する半生を振り返る展覧会です。

●会期 2016年9月24日(土)

～10月2日(日)

※9月26日(月)は休廊

●開館時間 10時～18時30分

●会場 阿久津画廊

(前橋市南町3-44-1)

◎お問合せ

027-2233-2220

◎URL

<http://www.akutsug.com>